

市民と歩む議員の会 議会報告

発行 市民と歩む議員の会 〒564-0041 吹田市泉町1-3-40 (吹田市役所内) TEL 06-6384-1231(代表)

吹田市議会議員(無所属)

ば ば
馬場けいじろう

みんなで創ろう
元気な吹田!!



連絡先 〒564-0041 吹田市泉町5-3-5 TEL 06-6389-8555 FAX 06-6389-8558
E-mail babakeijiro@gmail.com URL http://www.baba-keijiro.com

新型コロナウイルス感染症 への対応

馬場 新型コロナ緊急対策アクションプランとして実施された施策について、その効果の検証はすでに行われているのか。通常の事業評価なら年度ごとで構わないが、緊急対策である以上、本当に支援を必要とする市民に、適切な規模で支援することできたのか、不足はないのか、検証も緊急に行う必要がある。

行経 個別の事業だけでなく、全体として何らかの総括が必要となるが、現時点では詳細な分析は行っていない。緊急対策に取り組む中で得られた手応えや認識できた課題を今後の施策展開に生かしていく。

副市長 各部署ともまだ新型コロナ対策に取り組んでおり、一定の収束がみられたら事業検証を行いたい。

不十分な事業者支援

馬場 小規模事業者応援金について、予算提案のあった5月臨時会において、支給要件として4月だけでなく5月の減収も対象にすべき、またひと月では50%以上の売上減少にはなっていないが、数か月に渡って影響を受けている事業者も対象にすべきと提案した。支給対象の拡大について検討したのか。また当初の支給要件が適切であったか検証したのか。

都魅 本市独自の支援策として実施したが、支給対象外となる事業者から厳しい実情を訴える声も寄せられており、そのたびに支給要件の妥当性について検証してきた。大阪府の実態調査などから売上減少の大きい業種や資金繰りの厳しい業種等を参考にし、支給要件や対象範囲の見直しは行わなかった。

現在事業者が懸念していることは既存顧客、需要の回復であり、消費喚起の施策を推進していく。

馬場 担当部局は現状を正確に把握できていないと言わざるを得ない。十分な支援が届かず、いまだ緊急事態を脱することができていない事業者がたくさんあり、閉店・廃業に追い込まれた店舗や事業所も目立つ

ようになってきた。事業者の切実な声を聞き、直接給付も含め、事業の規模や形態にあわせてきめ細やかな支援策を講じるよう要望する。

公共事業を前倒しし景気の下支えを

馬場 全国の自治体で公共施設の整備延期が相次いでいるとの報道がある。新型コロナの影響で今年度以降の税収減が見込まれるため、予算規模が大きい事業の計画を見直そうというものであるが、本市では税収の落ち込みをどれくらいと見込んでいるのか。

税務 今後の経済情勢によって大幅に変動することもあるが、リーマンショック時を参考に令和3年度の税収は約24億円減少の約645億円と見込んでいる。

馬場 本格的な不景気に入れば、民間の設備投資が鈍ることも予想され、景気刺激策として公共事業の前倒しも検討すべしである。不況期には資材価格や人件費の低下も想定され、長期的に見れば財政支出の軽減にもつながる。

都計 現時点で計画の見直しは検討していない。財政見直しへの影響を注視する必要があるが、国庫補助金や市債、基金などの特定財源を活用しながら、できる限り計画通りに整備を進めていく。景気刺激策の一環として、国から補正予算等が示された際には、事業の前倒しについて検討したい。

感染症法の見直しに現場の意見を

馬場 新型コロナを感染症法上の指定感染症から解除すべきとの意見もあり、政府でも議論されている。保健所設置市として本市の見解を示してほしい。

健康 国において専門的知見等により判断されるべきであり、本市として見解を述べる立場ではないが、感染症法における入院勧告等の権限の運用見直しについて議論されており、その動向を含め注視している。

馬場 議論の過程に保健行政の現場の声を反映させることが大切である。現場を無視した結論にならないよう全国保健所長会を通じるなど意見を届けてほしい。

自然災害への対応

馬場 本年7月豪雨の際、福岡県や熊本県では指定避難所の小学校や公民館で浸水があり、周辺も冠水したため、孤立状態に陥ったとのことである。

本市でも同様の事態に陥ることが危惧され、昨年11月定例会において、浸水想定区域の市民の方々には浸水想定区域外への避難を推奨すべきであると提案した。その後どのような検討を行ったのか。

危機 浸水想定区域内にある各避難所の浸水想定高さ等の調査、西日本豪雨災害や令和元年台風15号による被災自治体へのヒアリングなどにより、検証を行ってきた。また、水防法に基づき設置されている三島地域水防災連絡協議会において、ワーキンググループが立ち上がり広域避難等について検討を行っているところである。

避難所としての小学校の施設整備

馬場 小学校の体育館に浸水の危険性がある場合、2階以上の教室に避難する必要がある。普通教室の開放について、施設管理者との協議は行われているか。

危機 「吹田市避難勧告等の判断・伝達マニュアル」等において、浸水の危機にある場合は屋内でもより安全な場所へ避難することが示されている。また、浸水想定区域にある小学校は津波・洪水避難ビルとしても指定しており、施設管理者は十分に認識しているものと考えているが、あらためて周知する。

馬場 避難者に車いすや足腰の不自由な方もいることは十分に想定される。学校へのエレベータ設置、各階への障害者用トイレの設置について、危機管理担当部署としてどのように考えているか。

危機 「吹田市地域防災計画」では、多人数の避難に供する施設の管理者は、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」に基づいた整備・改善に努めるとされている。バリアフリー化が十分でない施設が改修工事等を行う際には、まずは各法令に求められているスロープや多機能トイレなどが順次設けられるものと考えている。

様々な方が避難される避難所においては、通常的生活環境とは異なることから、互いに助け合うことが極めて重要である。

馬場 高齢者や障害者が我慢を強いられることの無いよう、避難所での合理的配慮の提供についても施設管理者や地域防災組織に周知してほしい。

避難所の定員超過への対応

馬場 新型コロナ対策のため、避難所の収容人数は半減されてしまう。収容人数以上の避難者が参集した場合、それでも受け入れるのか、他の避難所に移動して

もらうのか、危機管理室から指針を示しているのか。

危機 指針は示していない。現在、各避難所の収容人員が算出できるよう、基本的なレイアウト等の配布を行っている。三密を回避できない状態になれば、近隣の受け入れ可能な避難所等への案内・誘導も必要になると考えている。

馬場 危機管理室としての方針を示し、施設管理者や地域防災組織に周知する必要がある。

コロナ禍における避難所開設訓練

馬場 避難スペースを区切るためのパーティションや間仕切りの避難所への配備について、現況と今後の予定を示してほしい。

危機 全国の自治体からメーカーには発注が集中し、小学校に配備予定のワンタッチ型パーティションは10月末と今年度末の納品予定となっている。

自主避難所で使用予定の段ボール型のパーティションはすでに納品され、いつでも使用可能である。

馬場 配備された新たな備品を実際使用したり、感染疑いの避難者の動線を分けたり、コロナ禍における避難所開設についての訓練が必要である。地域自主防災組織とはやり取りを行っているのか。

危機 コロナ禍にあり、各地域において予定していた訓練が実施できない、または大幅に規模を縮小するという状況にある。

その中で、地域との連携、避難所の確実な開設と円滑な運営を目的とし、各避難所へ配備を予定している感染症対策物資を使用した「避難所開設・運営にかかる動画」を作成し、地域自主防災組織など避難所運営に関わる全ての方へ配信を予定している。「受付編」「レイアウト編」など短編的なものを用意し、訓練だけでなく、災害時においても活用できる内容で構成している。

また避難所開設・運営などを見える化するため「新型コロナに対応した避難所運営ガイドライン」の作成に取り組んでおり、今後、地域や自主防災組織などと共有し、避難所の確実な開設と円滑な運営に繋げたい。

PCR検査体制の拡充 地域外来・検査センターを2カ所設置

吹田市では、地域外来・検査センター（PCRセンター）を市内2つの病院内に開設します。これまで市保健所を通じてPCR検査を実施してきましたが、保健所を介さず、かかりつけ医から直接センターに検査依頼できるようになります。

検査機器も病院内に設置され、外部機関に検体を運ぶ必要がなくなり、迅速な検査結果の判明が期待されます。

障害者雇用の促進

馬場 公的機関は法定雇用率の達成に留まらず積極的に雇用し、障害者の活躍を推進することが必要との趣旨で、昨年6月に障害者雇用促進法が改正された。国と地方公共団体は、率先して障害者を雇用するように努めることが明確化され、障害者である職員がその有する能力を有効に発揮して、職業生活において活躍することができるよう、「障害者活躍推進計画」を定めることとされたが、作成期限が4月1日であったにもかかわらず、本市では策定に至っていない。

総務 障害者活躍推進計画について、本年4月もしくは今年度早期の策定を目指し、検討を進めてきたが、新型コロナ対策に係る業務が生じた影響もあり、現時点で策定に至っていない。できる限り早期の策定に向け、より効果的で実効性のある計画とするための検討を急いでいる。

馬場 障害者である職員、障害者団体、職員団体の意見聴取はすでに実施されているのか。

総務 これまで障害がある職員に対するアンケートを実施するとともに、障害者団体との懇談にも参加してきた。今後も障害者団体の声を伺い、勤務条件に関する事項については、職員団体の意見も聴取していきたい。

馬場 障害者活躍推進計画のポイントとして、実施状況を定期的にフォローアップする「障害者雇用推進チームの設置」が求められている。

総務 本市における障害者雇用推進チームについては、人事室や障害福祉室等の関係部局の職員や障害がある職員により構成された庁内組織の設置を検討しており、計画に記載する予定である。

障害特性に応じて雇用促進を

馬場 昨年の市職員採用試験から、知的障害、精神障害の方にも門戸が開かれたが、同じ教養試験を実施するため、身体障害の方だけが採用されている。厚生労働省が策定した障害者活躍推進計画作成指針においては、障害特性に応じた選考方法が求められている。

総務 昨年度から実施している身体、精神及び知的障害者を対象とした職員採用試験については、任期を定めない常勤職員として同一の勤務条件の適用を受ける職員の採用であり、平等な試験で能力実証を行う必要がある。障害種別ごとに採用することは、課題が多く、現時点では困難と考えている。

馬場 障害者雇用促進のためには、障害種別ごとの具体的な雇用目標を示す、採用枠は別にする、障害特性にあった多様な業務を用意するなど対応が必要である。

総務 現在、会計年度任用職員としての新たな採用を検討している。今後、雇用者としての経験を重ねる中で、障害種別ごとの採用や多様な業務の創出について、時間はかかるかと思うが、検討していく。

「障がい福祉計画」を推進せよ

馬場 昨年の11月定例会において、「第5期吹田市障がい福祉計画」に明記されている、就労困難者支援ネットワーク会議の設立、市役所や公共施設での職業実習体験・訓練の事業化について、どちらも未実施であることを指摘したところ、関係機関と協議中とのことだった。残念ながら本日に至っても実現されていないが、何が障壁になっているのか。

福祉 就労困難者支援ネットワーク会議の立上げにあたって、大阪市のハローワーク主催の就労支援系福祉サービス等実演体験会を視察するなど、ネットワークのあり方について検討を進めているが、新型コロナへの対応により協議は中断している。各参加者が多様な障害特性を理解し、就労に係る課題解決にあたり、どのように役割を担っていくのか整理することが必要と考えている。

また、市役所内での職業実習体験等については、障害特性に対応した業務とのマッチングが課題と考えており、現在、関係所管と協議を進めている。

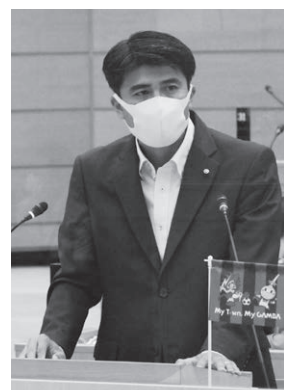
馬場 現在「第6期吹田市障がい福祉計画」および「第2期障がい児福祉計画」の策定が進められているが、前期の計画はどの程度達成できたのか。また、その進捗状況は次期計画にどのように反映されるのか。

福祉 第5期吹田市障がい福祉計画の進捗状況については、障がい者相談支援センターの整備は目標達成できたものの、他の取組項目については達成に至っていない。内容の詳細についてはホームページでの公表を予定している。

なお、社会福祉審議会障がい者施策推進専門分科会においてご意見を伺いながら、次期計画に引き継ぐ事項を検討している。

児童 第1期吹田市障がい児福祉計画について、概ね設置目標を達成しているが、「保育所等訪問支援の充実」および「主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所の確保」では達成に至っておらず、次期計画において、改めて数値目標に掲げ、引き続き障がい児支援の提供体制の整備に努めていきたい。

馬場 計画に掲げながら目標達成できていないことは忌々しき状況である。どうすれば達成できるのか障害者団体をはじめ、多様な意見を聴き、実行してほしい。



プラスチックごみの分別回収

馬場 「政府は文房具や台所用品などのプラスチック製品を資源ごみに分類する新たなごみのリサイクル案をまとめた。ペットボトルや食品包装などとまとめて資源ごみと扱い、再利用を促す」との新聞報道があった。すでにプラスチックごみを分別して回収している自治体もあるが、本市においては燃えるごみとして処分している。その理由を示してほしい。

環境 プラスチックごみは、細かく分別したとしても最終的にはエネルギー源として焼却されることになるため、燃焼ごみとして回収している。

馬場 プラスチックごみを分別して回収する場合、市民や行政にどのような負担が生じるか。

環境 市民には新たな分別の負担が生じ、行政では回収に要するコスト増、分別が正しく行われているか確認するための場所や人手の確保、市民への周知など様々な課題が発生する。

馬場 現在、ペットボトルや食品トレーは拠点回収、店頭回収により問題なくリサイクルされている。他のプラスチックごみとまとめて回収することで、多様な材質のプラスチックが混在してしまい、リサイクルしづらくなることも懸念される。

このように政府方針は合理性に乏しいため、他の自治体とも連携し、翻意を促すべきである。

環境 国・府からの情報もなく、詳細が不明である中、本市だけで国へ要望することは難しい。具体的な方策が明らかになれば、他市とも情報共有し、分別方法も大事であるが、いかにプラスチックごみを減らすことができるのかという視点で検討していく。

市長 プラスチックごみの分別回収となれば現場の混乱は避けられない。分別にかかる手間、コストバランス、正確に分別してもらうための市民への周知、問い合わせへの対応、可燃ごみのカロリー低下、リサイクル推進がプラスチック使用の免罪符となること、分別回収と再利用に関わるライフサイクルCO2バランスなど、多くの点を考慮しなければならない。

本市ではすべてのプラスチック製品を否定するのではなく、「脱使い捨て宣言」を行い、結果としてプラスチック廃棄物を減量することができる社会をめざしている。

動物愛護管理行政について

馬場 中核市移行により、動物愛護管理行政の所管が大阪府から本市に移った。様々な地域で問題になっている無秩序なエサやりの防止・抑制についても進展が

あるのではないかと、市民も期待している。中核市移行後、どのような取り組みを行っているのか。

健康 保健所には市民の方からエサやりに関する相談が多く寄せられており、その意向も尊重しながら、エサやり行為者へ必要な注意喚起を行っている。また相談者には、敷地内への猫の侵入を防ぐ対策の提案や注意喚起を促す掲示物の提供を行っている。

動物愛護に関する協議会の設置

馬場 中核市である船橋市は、飼い主のいない猫への対応など、動物行政における効果的な対策と推進の方策を検討するため「動物愛護管理対策会議」を要綱に基づき設置している。

動物愛護管理センターの設置、TNRの推進、屋内飼育の徹底、動物愛護教育のあり方など、本市において山積する課題に対し、行政、獣医師、自治会、地域住民、動物愛護団体などの各主体が協働して人と動物の共生するまちづくりを進めるため、同様の協議会を設置すべきである。

健康 行政と民間団体や住民との連携や協働は、本市の動物愛護行政において各種の課題に取り組む際に有用である。そのための基盤としての協議会の設置について、先行市の状況等を調査し、本市での必要性について研究していく。

馬場 協議会での議論を踏まえ、本市独自の動物の愛護及び管理に関する条例の制定をめざすべきである。

健康 国の法律や大阪府の条例がある中で、本市独自の条例を制定する必要性や妥当性があるか、慎重に検討する必要がある。

馬場 法律や府の条例だけでは不十分ということで、茨木市や箕面市のように動物愛護に関する独自の条例をもっている自治体もある。ぜひ検討を進めてほしい。

行経 = 行政経営部長

税務 = 税務部長

健康 = 健康医療部長

総務 = 総務部長

児童 = 児童部長

都魅 = 都市魅力部長

都計 = 都市計画部長

危機 = 危機管理監

福祉 = 福祉部長

環境 = 環境部長

11月定例会は11月26日から12月18日まで開催予定

⇒「市民と歩む議員の議会報告」次号は1月中旬に発行予定です。

馬場けいじろうプロフィール

昭和52年9月28日生まれ

西吹田幼稚園、吹田第二小、吹田第六中、東大寺学高校、早稲田大学政治経済学部卒

平成27年4月 吹田市議会議員 初当選（現在2期目）

〈議会での役職〉

健康福祉常任委員会委員、議会広報委員会委員、議会運営委員会小協議会委員、都市計画審議会委員